

ソーセージ職人ヘルマン・ウォルシュケさんの歴史をたどる ヘルマンさんの会

1940年代後半、狛江市がまだ狛江村だった頃、岩戸橋（現在の岩戸地域）にハム・ソーセージの工場があったことをご存知ですか？当時高級品だったハムやソーセージを袋詰めし、地域の人々のために特売セールを行っていたことで人気の工場でした。

この工場を開いたのが、第一次世界大戦中、日本に捕りよとしてやってきた、ドイツ人のヘルマン・ウォルシュケさんです。真面目で職人気質な方で、日本に来てからも食肉加工の分野で実績を積み重ねました。戦後、狛江に移り住み、家畜解体施設の一部を借りてハムやソーセージの製造を始め、その後自分の工場を建てたということです。狛江の人々からは、「ヘルマンさん」と呼ばれ親しまれていました。

時は流れて2013年、狛江に「ヘルマンさんの会」が発足しました。ヘルマンさん没後50年となったこの年、代表の飯田さんが、ヘルマンさんが眠る泉龍寺で大法要を行おうと提案したことがきっかけでした。泉龍寺の前住職との話し合いの末、永続性のある事業として、ヘルマンさんの歴史を探求する「ヘルマンさんの会」が始まったのです。

会発足の噂は口づてに広まり、現在では約30名の会員の皆さんが、互いに意見を出し合い、関係者へのインタビューを行い、時にはヘルマンさんの故郷ドイツ・ゼンフトルベルク市を訪

れるなど、活発な活動が続いています。調査結果は毎年報告書にまとめられ、それに基づく講演会も開催してきました。



歴代の調査研究報告書のなかには、ヘルマンさんの次男による寄稿も

ではこの研究活動を、狛江のPRや街おこし事業に繋げたいという熱い想いを持たれています。工場地跡に「ヘルマン通り」や記念碑をつくり、ドイツの子ども達を招いて、狛江の子ども達との交流会を催すことがこれからの楽しみだということです。想像するだけでワクワクしてきますね。



「ヘルマンさんの会」
代表 飯田吉明さん

「ヘルマンさんの歴史をたどりたいという、同じ志をもった仲間に出会えたことが何より嬉しかった」と、飯田さんは語ります。ほんの思いつきで始めた事業でしたが、今



グループワークでは、全員が積極的に意見を交わします

ヘルマンさんの味



ヘルマンさんが亡くなった後、残念ながら工場は閉鎖となってしまいましたが、現在も、ヘルマンさんの味を継ぐお店が狛江の近くにあります！詳しくは、「ヘルマンさんの会」代表の飯田さんにお問い合わせください。



「ヘルマンさんの会」HP

編集後記

今年3月に発行された12号で、惜しまれつつも発行終了となった「こまえがお」。市民活動支援センター広報誌としてリニューアルした「こまえくぼ1234」内の記事として、復活しました！これからも市民目線で、狛江の市民活動団体をご紹介します。（熊沢）